テーマ別

中級から学ぶ日本語

三訂版

松田浩志・亀田美保〔著〕

B5判 並製 156頁／定価（本体2,300円＋税）
ISBN 978-4-327-38465-4 C1081

音声無料ダウンロード

新刊

累計31万部超のロングセラーテキスト、大改訂！

著者より

『テーマ別　中級から学ぶ日本語』は、初版以来、1度の改訂を経て20年を超す長きにわたり、多くの先生方からご支持をいただいてまいりました。このたび、時代の変化にともなう日本語教育環境、とりわけ学習者層、学習ニーズの変化に対応する目的で、大幅な改訂作業をいたしました。
主に以下の諸点を考慮し、改訂作業を進めました。

●より時代に即応したテーマの選定
学習者が身近な問題として取り組み、テーマについて考える作業を通して日本語力を伸ばすことを目指す。

●本文の長さを調整
元来から、各課の本文は学習者が書ける文のサンプルとしての役割を持つことを目的としていたが、その役割をさらに明確にした。

●語彙・表現を厳選
より応用範囲の広い語彙・表現を選び、特に、慣用表現（例：目が回る）を各課に取り入れた。

●新出漢字の扱い
非漢字圏の学習者に配慮し、漢字の提示方法、練習方法を工夫した。

改訂にあたっては、これまでお使いいただいた先生方からのご意見、ご提案が大きな助けになった点、心から感謝申し上げます。皆様にこのたびの改訂の趣旨をご理解いただき、少しでも日本語教育のお役に立てばと願っております。

研究社

累計31万部超のロングセラーテキスト、大改訂！

20年以上にわたり好評を博してきた中級向け定番テキストが、三訂版で大きく生まれ変わりました。

“学習者の興味・関心に応えるようなテーマを設定し、教師と学習者がともに議論し、意見を述べ合い、その過程で日本語の総合力を伸ばす”

という趣旨のもと、現在の日本語教育現場に適した教材として、全面的に見直しを行いました。

テーマの例 「外国語学習」「食事のあり方の変化」「ことわざや比喩」「異なる文化との向き合い方」「言葉の役割」「外見と中身」「思い込み」「現代社会の人間関係」「異常気象」「歌の役割」「医療技術の進歩」「貧困」「少子高齢化」等

- 多様なカリキュラムに対応させるため、レッスン数を全25課から20課に変更した。
- 今の時代により即したものにするため、各課の本文の内容を見直した（完全に書き換えた課が計11課、本文を短くし、部分的に書き換えた課が計9課）。
- 学習者の文化的背景等にかかわらず、普遍的なテーマを扱うよう心がけた。
- 本文の長さは500〜900字以内に統一し、学習者が無理なく取り組める分量にした。
- 本文の改稿に伴い、語彙や学習項目の見直しを行った。新出語彙・表現は、活用範囲の広いものに厳選し、1〜20課までで合計770程度とした。
- 課が進むにつれて徐々にレベルアップできるよう、本文の字数、新出語彙・表現の数を少しずつ増やす工夫をした。
- 本文の音声は研究社HPより無料ダウンロード。

新しい言葉

新しく学ぶ語彙・表現を、本文に出てくる順に提示。新規項目は1課あたり20〜50以内に抑え、課が進むにつれ増えていくよう工夫した。

よく使われる慣用表現を積極的に取り上げた。

第1課 まなぶ

新しい言葉

始める	心配スル	それでも	親
口を出す	いけない	ある（日）	～（だ）って
なぞなぞ	手を止める	場面	口々に
そこで	相手	文化	学ぶ
広げる	楽しみナ・ニ		

いっしょに考えましょう

テーマの焦点へ誘うような設問を準備し、次の〈読みましょう〉につながるようにした。

いっしょに考えましょう

❶日本語のほかに、外国語が話せますか。
❷外国語の勉強が好きですか。
❸日本語の勉強で、今こまっていることがありますか。

読みましょう

①テーマの紹介、
②新規学習項目の提示、
③読解力の補強という
3つの目的を持たせた。

本文の長さは500〜900字以内に統一。課が進むにしたがって字数が増えていく構成。

第1課

第1課

読みましょう

なぞなぞ

子供が小学校で英語の勉強を始めた。私は、英語が話せ
くれるといいなと思ったり、難しくて、きらいになったらこ
したりしていた。それでも、親が口を出して、子供にいやがられてはいけな
いと思って、「今日は何を勉強したの」とたずねられないでいた。

ある日、「お母さん、外国の子供は、夜寝る前に顔を洗うんだって。どう
してかわかる」と子供が聞いてきた。初めは、何を言っているのかよくわか
らなくて、いつものなぞなぞかなと思いながら、料理の手を止めた。すると、
英語の時間に、お父さんが子供たちに「寝る前に顔を洗いなさい」と言う場
面が出てきたと、思いもしない話が始まった。生徒のひとりが「先生、夜、
歯はみがくけど、顔も洗うの」と言うと、みんなが口々に、「ぼくは」「私は」
と言い始めたのだと言う。

そこで、
ね…」と話
と難しい話
私は、「子
見たり、も
な話をして

答えましょう

本文の理解度を確認し、テーマの趣旨を問えるような設問を設けた。

まなぶ

答えましょう

A「なぞなぞ」の文を読んで、質問に答えましょう。

1. 筆者（＝この文を書いた人）はどんな人ですか。
2. 子供が英語を勉強することをどう思っていましたか。
3. どうして子供に英語の勉強のことをたずねないのですか。
4. 筆者は、何をなぞなぞかなと思いましたか。
5. 子供はどんな話をしましたか。
6. 生徒のひとりがどんなことを言いましたか。
7. 子供たちが口々にいろいろなことを言い始めたとき、先生はどうしましたか。
8. 子供の話を聞いて、筆者はどう思いましたか。
9. 筆者が次の話を楽しみにするようになったのは、どうしてだと思いますか。

B 友だちと次のことを話してみましょう。

1. 「寝る前に顔を洗いなさい」という場面で、子供たちが質問したのはどうしてですか。
2. 先生の話にある「世界にはね…」はどんな説明だったと思いますか。

使いましょう

本文に出てきた新規の文法項目が活用できるようになることを目指す。

例 の文を参考にして、既習の語彙・表現を使い、学習者が文を作ることを楽しみながら練習できるように構成した。

使いましょう

A-1「～ようになる／～なくなる」という言い方を練習しましょう。

例

1. （今までのれませんでしたが、）友だちに教えてもらって、自転車にのれるようになりました。
2. 新しいしんかんせんができると、東京まで1時間ぐらいで行けるようになります。
3. 最近小さい字が読めなくなってきました。

練習

1. 毎日練習して、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ようになりました。
2. もう少し体重をおとすと、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ようになります。
3. 最近＿＿＿＿＿＿＿＿が＿＿＿＿＿＿＿＿なくなってきました。
4. ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿なったらいいなと思います。

3

＊本文見本50%縮小

第1課 まなぶ

テーマ

この課では、「外国語を学ぶこと」とはいったいどういうことなのかを考えます。学習者は、「中級」を手にしている時点で、日本語という外国語を学習しています。また、それ以外の言語の学習経験を持った人も少なくないと思います。学習の過程で、学習者が共通して体験した面白いこと、難しいことについて意見交換しながら、外国語学習という作業がどんなことなのか一緒に考えてみたいと思います。

新しい言葉

- **心配**スル：「心配」と表示しなかったのは、名詞の前では「心配なこと」と使う以外に、あまり使われないため。それも「心配事」という名詞のほうがよく使われる。「～が／で心配だ」という形で使うことが多いと教えておく。
- **口を出す**：自分とは関係のない第三者の話に意見を述べ、それを言われた側が「君には関係ない」と不愉快に思う状況などに使われる。
  （例）課長が部下に嫌われるのは、関係ないことにまで口を出すからだ。
- **ある（日）**：「ある人」「ある所」という形で使うことが多い。よくわからないとき、言いたくないときに使う。
- **～（だ）って**：伝聞に使う口語表現。
  「（名詞）って」　（例）明日は、雨だって。
  「（形容詞）って」　（例）とても寒い／寒かったって言ってました。
  （例）そこは静かだ／静かだったって聞きました。
  「（動詞）って」　（例）山田さんも行く／行ったって言ってました。
- **そこで**：何か困ったことや問題があり、それが解決するように「～した」というときまた、何か特別な状況を知る／機会を得ることになり、「～した」というときに使う。
  （例）明日約束していた友達の手伝いがどうしてもできなくなった。そこで、Aさんに行ってもらうように頼んだ。
  （例）交通事故でたくさんお金がいることになった。そこで、母に電話して送ってもらうことにした。
  （例）前から見たいと思っていた絵が展示されるという宣伝を目にした。そこで、さっそく出かけてみた。

「そこで」は「それで」と同じように、「前の文で述べられたことが理由になって～した」という意味で使われるが、上で説明したように、理由になる内容が問題や特別なことでなければ、「そこで」は使えない。
（例）友達が急に来られなくなった。それで／そこで、食事会は来週にした。

—1—

付属教材『教え方の手引き』

新しい言葉

新しい語彙や表現を導入する際のポイントを、例文つきでわかりやすく提示。
特に、「辞書であまり扱われていない点」を載せるよう心がけた。

＊本文見本43%縮小

＊本文見本は編集途中のものです。
訂正・加筆されることがあります。

第20課

第20課

読みましょう

ものづくり

衛生上問題があるからと、薄い料理用手袋を使うことが義務づけられ、すし屋を営む人たちが、それではすしが握れないと騒ぎになった。外国での話だが、すし独特の固過ぎず柔らか過ぎない口当たりは、素手でなければ出せないと訴えたらしい。さいわい、騒ぎの割にはすんなりと、特別に許可が出たようだ。どういう理由で認められたのかは知らないが、時間をかけて体でものを覚えることの大切さが認められたのであれば、うれしいことだ。

私もすし屋をして、40年近くまな板の前に立っている。ときどき、若い子が働かせてほしいと言ってくる。見どころのありそうな若者には、雇うにあたって「しばらく見習いとして」という条件で、2か月ばかり包丁研ぎをしてもらう。しばらくは何も言わないでおいて、慣れてきたころに私が研いだ包丁の刃先を触らせてみる。「どうだ、違うか」と言うと、「確かに違う」と言う。私の包丁の刃先を指でくり返し触り、そこそこ研げるようになる子は、だいたいものになる。

見習いの中には、頭の固い職人が意地悪をしていると思う子もいるかもしれない。しかし、どうしても言葉にして説明できなくて、それで、触らせてみるより仕方がないのだ。お客さんに喜んでもらえるようにと、料理には、色の取り合わせ、だしの加減や舌触りと、あれやこれやに工夫がこらされている。ひとつひとつ、目で、指で、舌で覚えてもらうのでなければ、一人前の料理人として、胸を張って料理が出せるようにはなれない。みんな、体で覚えてもらうよりほかはない。

料理に限らず、不思議な色合いを出す伝統染物の技術、そばを打つときの力の入れ具合、なめらかに木を削り上げる大工のわざなど、「この技術にかけては、誰にも引けを取らない」という職人がいる。その人たちは、こつを教えてくれと頼まれても言葉にはしないはずだ。できないのだ。「ものづくり」は日本のお家芸だと言われるが、決してそうだとは思わない。世界中どこへ行っても、言葉にはできない、体で覚えるよりほか身につかない職人のわざがあるに違いない。それが、「触ってみろ」「なめてみろ」と伝えられているのだ。

使いましょう

新規の文法項目を教える際の留意点を、豊富な用例とともに詳しく丁寧に解説した。
練習問題の解答例も掲載。

付属教材『教え方の手引き』

使いましょう

A-1 「～ようになる／～なくなる」

形　動詞　泳げる／食べられる＋ようになる
　　泳げ／食べられ＋なくなる

用法

A-1で練習するのは、「～できる」という動詞と一緒に使って、「前はできなかったのに、今はできるようになった」「前はできたのに、今はできなくなった」という意味を表す表現です。

（使いましょう）の例文1に（今までのれませんでしたが、）と添えたのは、「前と違って今は」という点を確認しながら練習できるようにという意図です。例文の2, 3も同じように、その点を添えて練習するといいと思います。

（例）プールに2年間通って、やっと**泳げる**ようになりました。
（例）昔はたくさん食べていたのに、今はあまり**食べられ**なくなりました。

[解答例]

1. 毎日練習して、やっとコンピュータが使えるようになりました。
2. もう少し体重をおとすと、もっと走れるようになります。
3. 最近漢字が書けなくなってきました。
4. 日本語を使って仕事ができるようになったらいいなと思います。
5. 卒業できなくなったらこまるので、いっしょうけんめい勉強します。

まとめましょう

本文のテーマを再度確認し、口頭や作文でまとめる練習をする。

話しましょう

学習者同士が口頭で意見交換をすることにより、テーマについての考えを深め、会話の力を伸ばすことを目指す。

漢字を練習しましょう

新出漢字は、「A)読みと書きの両方を練習するもの、B)読みだけを練習するもの」の区別がわかるように提示。非漢字圏出身の学習者にも配慮した。

第1課

まとめましょう

次の質問に答えて、「なぜなぜ」の文をまとめてください。

1. 美語の時間にどんなことがありましたか。
2. 先生は子供たちにどんなことを教えようとしましたか。
3. 筆者は美語を学ぶことをどう思うようになりましたか。

話しましょう

次のことを話し合ったり、作文に書いたりしましょう。

1. 「外国語の勉強」
   - 日本語の勉強はどうですか。
   - 日本語を勉強して良かったと思ったことがありますか。
   - それはどんなことですか。
   - 外国語を勉強すると、どんなことができるようになるでしょうか。
2. 「ものの見方」
   - 日本に来て、自分の育った所とちがうと思ったのはどんなことですか。
   - そのとき、どこがどのようにちがうと思いましたか。
   - どうして日本ではそうなのでしょうか。

漢字を練習しましょう

A 青い漢字の読み方と書き方を練習しましょう。

子供[こども]　始める[はじめる]　私[わたし]
心配[しんぱい]　親[おや]　洗う[あらう]
初め[はじめ]　生徒[せいと]　相手[あいて]
文化[ぶんか]

B 青い漢字の読み方をおぼえましょう。

難しい[むずかしい]　今日[きょう]　お母さん[おかあさん]
寝る[ねる]　お父さん[おとうさん]　場面[ばめん]
歯[は]　学ぶ[まなぶ]

6

〈テーマ別〉
中級から学ぶ日本語
【三訂版】

松田浩志・亀田美保(著)
B5判 並製 156頁
定価(本体2,300円+税)
ISBN978-4-327-38465-4 C1081

付　属　教　材

〈テーマ別〉中級から学ぶ日本語【三訂版】 教え方の手引き

CD付 B5判 並製 144頁 CD付／定価(本体3,800円+税) ISBN 978-4-327-38467-8 C1081

本冊の練習問題の解答例を掲載したほか、新しい語彙や文法項目をわかりやすく教えるためのポイントを丁寧に解説。本冊の指導だけでなく、中級レベルの日本語教育全般に応用できる。本文の音声を収録したCDを付属。

〈テーマ別〉中級から学ぶ日本語【三訂版】 ワークブック

CD別売 B5判 並製 132頁+別冊解答60頁／定価(本体2,000円+税) ISBN 978-4-327-38466-1 C1081
[別売CD 2枚組 定価(本体4,200円+税) ISBN 978-4-327-99133-3 C1881]

本冊と共通のテーマによる速読・聴解の練習問題のほか、テキスト本文に出てくる語彙・漢字・文法の練習問題を併せて収録。本冊と併用することで、読む、書く、聞く、話す、の4技能をバランスよく伸ばすことができる。別冊解答付き。

著者紹介

松田 浩志（まつだ　ひろし）
1975年、カナダBritish Columbia大学でM.A.(言語学)取得。1996年よりプール学院大学国際文化学部教授、2012年退職。
主な著作:『テーマ別 中級までに学ぶ日本語』『テーマ別 上級で学ぶ日本語』『使うことば』『使うことば2』(以上、共著、研究社)、「異文化間協働の実践」(『異文化間協働』[小林哲也ほか編著 アカデミア出版会]に収録)ほか

亀田 美保（かめだ　みほ）
学校法人 大阪YMCA留学生事業部日本語プログラム教務主任。2008年、コロンビア大学大学院夏季日本語教授法コースにてM.A.取得。
主な著書:『テーマ別 中級までに学ぶ日本語』『テーマ別 上級で学ぶ日本語』(以上、共著、研究社)ほか。

注　文　欄

《研究社刊》

〈テーマ別〉中級から学ぶ日本語【三訂版】	定価(本体2,300円+税) ISBN978-4-327-38465-4 C1081	申込数	冊
〈テーマ別〉中級から学ぶ日本語【三訂版】 教え方の手引き	定価(本体3,800円+税) ISBN978-4-327-38467-8 C1081	申込数	冊
〈テーマ別〉中級から学ぶ日本語【三訂版】 ワークブック	定価(本体2,000円+税) ISBN978-4-327-38466-1 C1081	申込数	冊

お名前　　TEL
ご住所　〒　　FAX

書店名(印)

*表示の価格は本体価格です。別途消費税がかかります。　14.10

研究社　〒102-8152 東京都千代田区富士見2-11-3　TEL 03-3288-7777　FAX 03-3288-7799［営業］　http://www.kenkyusha.co.jp